

ケアアテンダントについて

社会福祉法人 三幸福社会

①ケアアテンダント導入の経緯

介護業界における人材不足は想定を上回るペースで深刻化しており、厚労省試算では2025年までに38万人もの介護人材が不足すると出されている。

そのような厳しい環境の中、介護士の安定した採用は今後難しくなると考え、医療機関における看護師と看護助手の役割分担の仕組みをヒントに、介護業界においても導入することで、介護士人材が不足下であっても、ケアアテンダントとの役割分担を行うことで、サービス提供を継続することが必要との考えから導入に至る。

②ケアアテンダントの定義（三幸福社会定義）

- ・基本は介護士関連資格を有さない職員。ただし、有資格であっても介護業務の遂行が困難な者も含む。
- ・働く時間や曜日を固定せず、マッチングすれば自由な働き方が提案できる。子育て、シニアの方でも働ける時間での勤務が可能。
- ・介護助手ではない。介護士のお手伝いのイメージではなく、生活支援のエキスパートとしての一職種としての位置づけをしている。その思いからケアアテンダントと呼んでいる。

③ケアアテ導入による変化

- ・介護士不足であるが、ケアアテ導入により役割の分担及び専門化することで、効率的な運営ができています。
- ・ケアアテが状況に応じて、ファミリーに散歩やコミュニケーションをとることで、ファミリーの生活の質の向上に役立っている。
- ・シニア層の職員が増えることで利用者様との会話がより促進される（話が合う）

④期待する効果

- ・介護士の専門性を高め、専門職としての地位を確立。
- ・シニア世代における、社会貢献意欲に応える仕事となる。
- ・介護の仕事をする際、求められる内容は、三大介護（排泄介助・入浴介助・食事介助）が中心と考えるが、生活環境の整備や日常会話など多くの仕事が存在する。介護系の資格を取得したが、三大介護に抵抗がある潜在介護士の掘り起こし。

以上